

「2023年度韓国・延世大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学総合人間学部1年 木下 尚馬

- ① 今回のプログラムは、人生で初めての留学になった。留学に行く前からも、自らの視野の狭さ、生きている世界の狭さを感じていたが、今回のプログラムにおいてそれをさらに実感した。大学に入る前は、東大が一番、京大が二番ぐらいの認識でいたが、京大に入ってから多様なバックグラウンドを持つ人々（特に留学生）と関わるようになり、その考えは覆された。今回、延世大学校という超名門大学に行き、多様なバックグラウンドを持つ、UICの学生と交流し（少し会話した程度だが）、世界の広さを感じた。韓国人は、幼少期から子供を海外に留学させることが多く、国際理解、そして、特に英語力において日本人との顕著な差を感じた。個人的にソウル大学にも行ったのだが、学生に英語で道を尋ねたところ、かなり流暢な英語で帰ってきた。おそらく、京大でもここまで流暢に話せる人は少ないだろう。だから、自分の英語力をさらに伸ばしていく必要があるように感じた。また、私はこの春に交換留学の応募をしようと思っており、ヨーロッパ方面に行こうと思っていたのだが、韓国も選択肢の一つになった。
- ② 韓国は日本と文化的にも近く、あまり海外という感じはしなかったが、言語面での不便さは感じた。また、衛生への意識が日本より低く（トイレとか）、それにあまり慣れることができなかった。海外経験を積む上では、もっと文化的に日本と異なるヨーロッパなどにいく方がいいのではないか。
- ③ 今回のプログラムは言語学習がメインであったが、非常に楽しく、非常に効果的に学ぶことができた。先生が非常にわかりやすく、語学堂の凄さを感じた。また、少人数のクラスであったため、質問もしやすかった。生徒が一方向的に授業を受けるのではなく、生徒側がアウトプットする機会もあり、素晴らしい授業であった。また、文化体験では、韓服、韓国料理などの韓国の文化を体験し、ここでは新しい友達も作ることもできた。また、午後、土日は休日であるため、様々な場所を観光することができた。特に面白かったのが、DMZ（韓国と北朝鮮の国境）である。望遠鏡から北朝鮮を眺めることができた。
- ④ 韓国の友達に会ったり、新しく友達を作ったりして色々話を聞いたのだが、韓国の学生は、大学でかなり実用的な勉強をしているように感じた。我が国の経済発展のためにも、私もできるだけ実用的な勉強をした方が良いのではないかと思った。
- ⑤ 좋은 경험이었습니다
- ⑥ 海外の大学の授業は、もっと生徒が積極的にに関わり、先生と生徒のコミュニケーションが盛んであると考えていたが、あまりそうではなくて残念である。セミナーなのに、先生が一方向的に生徒に話しかけているだけなのだ。韓国人も日本人と同じように授業中にずっと黙ったままでのいるのだ。あまり京大のE2の授業と変わらないと思う。むしろ、京大の ilaseminar E2の方が生徒が積極的に、主体的に授業に関わっている。京都大学のE2の授業の素晴らしさを感じた。授業内容については、韓国におけるジェンダーについて少し学ぶことができた。このテーマは少し自分の専攻と離れており、難しかったが、そこそこ面白かった。また、授業スライドで知らない単語もそこそこあり、自分の英語力の無さを感じた。また、prof. khamの授業では、日韓関係史や韓国の経済発展について、韓国人の視点から学ぶことができた。もっとたくさん質問をしてあげればよかったと思っている。